

榛名湖畔「紅葉狩ミサ」(今日の福音)

参加者：約110名(日本・韓国・ベトナム・ペルー・スリランカ・インドネシア)(バス3台)

9:00 太田教会を出発(素晴らしい晴天)

山々の紅葉を愛でながら、バスは鋭角なカーブを登っていく。さすがに山頂付近の木々は落葉していたが、まっすぐに伸びる高原の道は気持ち良い)

11:00 榛名湖着 野外ミサ

空気は冷たいが青空の下、野外ステージ上に祭壇を作り、ミサを捧げる

暑い国から来ている人達は寒さで震える可能性がありますから、できるだけ早めに終わらせていただきます。

ここにきてこれを拾ったのですが、これは何ですか？ 落ち葉ですね。過ぎてしまう、地面に落ちているただの葉っぱですよ。しかし、よく考えてみるとこの落ち葉にも歴史があります。私達はこの落ち葉を見て、「御苦労さま」と言えるくらいの余裕が必要ではないかと思えます。

(「なんですか?」「雨」… ミサ途中より曇り、大粒の雨がポツリ、ポツリ降りはじめた。)

日本の昔からの宗教では、あらゆるものに魂がある、そして、神になれる、ということですよ。それが神道の教えですね。しかし、私はこの場で申し上げます。この落ち葉が神ではなく、きつねが神ではなく、今、空から落ちている雨も神ではないです。あらゆるものが神になれるということではなく、あらゆるものには神、本物の神の息吹があります。この息吹を感じられるのはひとつの信仰です。ですから、春に芽吹いて、秋には落ち、やがて朽ちて土に帰る落ち葉ですが、ただ過ぎ去るだけの空しいものではありません。すべてのものには神の息吹があります。それを見ようとするのが信仰の目ではないかと思えます。

よくご覧になって下さい。この美しさは見ようとする心があれば、美しく見えます。しかし、「秋だから寒くなったんだなあ」と思うだけなら、それで終わりです。この落ち葉を見ようとする心があれば、その歴史とか意味とか、その中にあるイエス様の意思、み旨が見えるでしょう。

今日一日、私達は幸せにならなければなりません。その幸せを得るために私達がすることは、きれいな目で、きれいな心で、相手の心、自然の美しさを見るようにすることです。それができれば神様を讃える心が生じるのではないかと思えます。

(「ありがたいですね」 天気は雨からみぞれになってきた)

ありがとうございます。

(その後は曇り、また晴れ、吹雪で湖も見えないくらいになったり、また晴れて湖面に美しい虹を見たりと目まぐるしくも印象深い一日でした)

15:00 榛名湖出発 17:30 太田教会着